

北海道森林づくり基本計画の概要

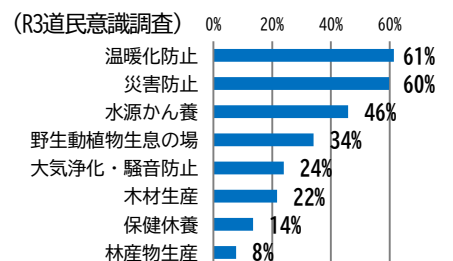
第1 計画策定の考え方

- ・本計画は「北海道森林づくり条例」に基づき、百年先を見据えた森林づくりに関する施策を推進するために策定する「北海道総合計画」に沿った特定分野別計画
- ・計画期間は、令和4～13年度の10年間で5年毎に見直し。今後20年を見通し、当面10年間の施策を示す。

第2 森林づくりに関する基本的な方針

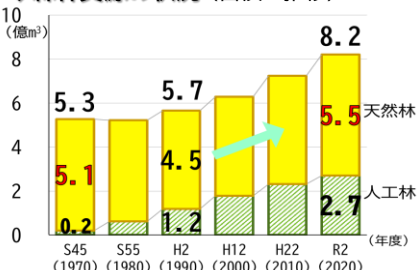
本道の森林づくりを取り巻く情勢と直面する課題

◆本道の森林と期待される役割



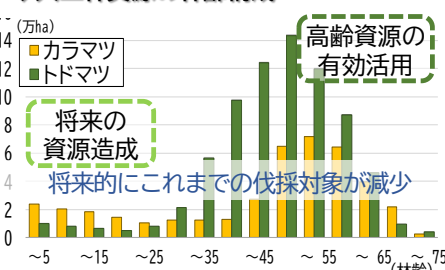
・温暖化防止や災害防止等の機能に大きな期待
⇒公益的機能の発揮に配慮した森林づくりが必要

◆森林資源の状況（蓄積の推移）



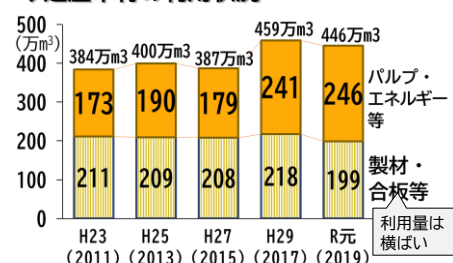
・人工林資源の増加、天然林資源の回復傾向
⇒中長期的な視点での人工林の維持管理や天然林の育成・有効活用が必要

◆人工林資源の林齢構成



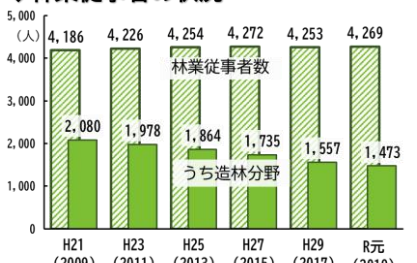
・カラマツ・トドマツともに高齢級に偏り
⇒森林の若返りと木材利用の一体的な推進が必要

◆道産木材の利用状況



・利用量が増加する中、製材等は横ばい
⇒道産建築材の供給力強化や、幅広い分野での道産木材の需要拡大が必要

◆林業従事者の状況



・林業従事者数は横ばい。造林分野は減少
⇒森林整備を進めるため、造林分野などでの人材確保や施策の効率化が必要

◆森林を巡る社会情勢の変化（ゼロカーボン、SDGs）



・環境保全やCO₂排出削減に対する企業等の関心の高まり
⇒木育マスター、企業など多様な主体と連携した森林づくりが必要

計画の基本的な方針

長期的な資源動向を見据え

○森林づくりの基本理念

- 地域の特性に応じた森林づくり
- 林業及び木材産業の健全な発展
- 道民との協働による森林づくり

実現のため

○施策推進の基本的な方向

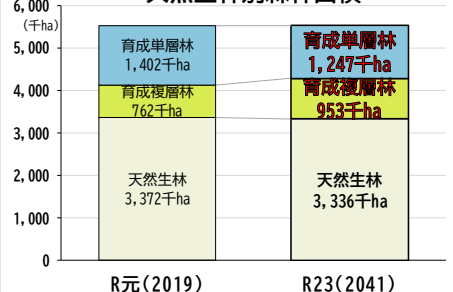
森林資源の循環利用と木育の一層の推進

7つの「重点的な取組」を設定

第3 計画の目標（今後20年程度を見通した長期的な数値目標）

地域の特性に応じた森林づくり

育成単層林・育成複層林・天然生林別森林面積

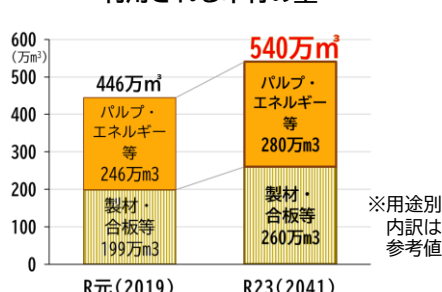


・効率的な施策が可能な森林は育成単層林
・針葉樹と広葉樹の混交した森林への誘導などによる、育成複層林の増加

【めざす姿】森林の多面的機能の発揮（望ましい森林の姿に誘導）

林業及び木材産業の健全な発展

森林づくりに伴い産出され、利用される木材の量

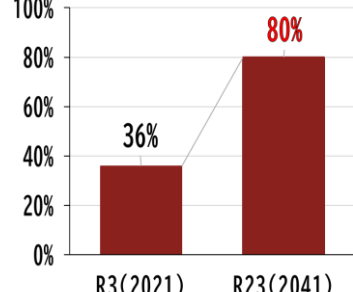


・住宅や店舗、オフィスなどの建築物や家具、日用品など様々な分野での道産木材利用を促進

【めざす姿】道民生活への木材・木製品の定着（森林づくりに伴い産出される木材の有効活用）

道民との協働による森林づくり

木育に取り組んでいる道民の割合



・木育マスター等との連携のもと、木育の取組を全道に展開し、道民の参加を促進

【めざす姿】道民への木育の定着（植樹や木工の体験など木育に取り組む）

☆7つの「重点的な取組」

1 森林資源の循環利用の推進

重点取組①

ゼロカーボン北海道の実現に向けた活力ある森林づくり

- ・コンテナ苗や林業機械などを活用した、低コストな植林
- ・成長の早いクリーンラーチ苗木増産（さし木苗の育苗技術の普及・検証）
- ・市町村等と連携した、手入れが行われていない森林の整備



コンテナ苗

重点取組②

広葉樹資源の育成・有効活用

- ・航空レーザ計測等を用いた的確な資源把握手法の確立
- ・森林の現況に応じた人工林の針広混交林化や広葉樹天然林の育成
- ・仕分けの効率化による付加価値向上
- ・道民の生活に身近な日用品・家具など、様々な用途での使用事例の効果的なPR



針広混交林

重点取組③

道産トドマツ建築材の安定供給体制の強化

- ・先進技術による高精度な森林調査
- ・北海道森林管理局や関係団体等と連携した、原木の安定供給
- ・乾燥施設等の整備支援
- ・プレカット工場等と製材工場の需給マッチング支援



乾燥施設

重点取組④

森林づくりを担う「人材」の確保

- ・造林・種苗分野での担い手確保
- ・SNSなどを活用した林業の魅力発信
- ・北森カレッジでの実践的な教育
- ・林業事業体の経営体質の強化

- ・労働安全衛生の確保（伐倒作業の機械化促進等）



北森カレッジでの実習

重点取組⑤

スマート林業による効率的な施業の推進

- ・下刈り等の機械を進めるための実証・普及促進
- ・ドローンでの苗木運搬や造林機械遠隔化・自動化技術の開発・実証
- ・ICTハーベスタによる効率的な原木供給体制の実証・普及



ドローンによる苗木運搬

重点取組⑥

HOKKAIDO WOODブランドの浸透などによる道産木材の需要拡大

- 《HOKKAIDO WOODブランド力の強化》
- ・多様なツールを活用した魅力発信
- ・展示会参加等のプロモーション

《建築物等様々な分野での需要拡大》

- ・ゼロカーボンへの貢献の数値化等による施主や工務店等への働きかけ
- HOKKAIDO WOOD BUILDING 登録制度
- ・研究機関等と連携した土木分野での利用



HOKKAIDO WOOD

2 木育の推進

重点取組⑦ 木育マスターや企業などによる木育活動の推進

- ・環境保全に関心のある企業等に対する森林づくりへの参加やイベント開催などの積極的な働きかけ
- ・多様な木育活動をコーディネートする木育マスターの育成やネットワーク化
- ・企業等のニーズの把握、フィールドの確保



企業による森林づくり

その他の主な施策

<森林の整備の推進及び保全の確保>

- ・胆振東部地震の被災森林において効率的な森林の復旧
- ・事前防災・減災や国土強靱化に向けた治山対策等

<道民の理解の促進>

- ・植樹の日・育樹の日の普及や植樹祭・育樹祭などの実施

<山村地域における就業機会の確保等>

- ・山村地域と都市部との交流による関係人口の拡大

<道有林野の管理運営>

- ・道有林における多様で先導的な森林づくり、資源や技術力を活用した地域貢献

第5 連携地域別の森林づくりの取組方向（地域特性と活動を踏まえた取組方向の例）

1 道央連携地域

- ・地域一体となった胆振東部地震に係る森林再生の着実な推進

4 オホーツク連携地域

- ・首都圏などにおけるオホーツク産木材・木製品の利用促進

2 道南連携地域

- ・郷土樹種のブナやヒノキアスナロなどによる森林づくりの推進

5 十勝連携地域

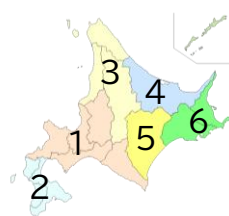
- ・「デジタル森林浴」など、地域の森林資源の多様な利用促進

3 道北連携地域

- ・北森カレッジのインターンシップなどの積極的な受け入れ

6 釧路・根室連携地域

- ・木造牛舎等の普及促進による道産木材の活用



第6 計画の推進体制

- ・庁内関係部局との横断的な連携により効果的に施策を推進
- ・市町村や関係団体、北海道森林管理局等と緊密に連携
- ・施策の進捗状況や効果等を毎年点検・評価し、議会や審議会に報告するとともに、道民に公表